

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 120 号

平成24年4月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「エデンのかけ橋 - モーク先生の教えと手紙」より(11)

第4部 弟子たちの書簡集（続き） 小西（旧姓今西）芳之助（前号よりの続き）

モーク先生へ

小西

先月（1940年4月か）の23日に、長谷川進一君が、今重病で伏している天野君を訪ねたそうです。

ほんの少しだけ、彼らは話し合ったそうですが、それは恵みの時だったようです。私は、そのことをお知らせします。

天野君は、もうすでによく聞こえない様子です。長谷川君が天野君に、

「今は、なすところ知らずだね。」それに応えて天野君は、

「私にとって神は全てだ。」それに対し、長谷川君は、「復活こそ信仰。」

「もちろんです。」と天野君が答えました。そして「何か、他に言うことは。」

天野君は「モーク先生の立派な、よき弟子となって、天に行きたいと、モーク先生に伝えて下さい。」と言ったそうです。

それから、長谷川君は、彼の家を去りました。多分、この世で、

天野君が友人と交した話は、これが彼にとって最後だったと思います。

小西様へ

ローラ・モーク

先週の月曜の夜、広野、藤田、中上、栗野、小田、鳥井、篠塚、海老原、大島、長谷川進一、萬木氏他がここに集まりました。

大変重病にある天野氏のことを聞いて動転しています。

みんなでお金を集めました。そして昨日、藤田氏と私は、小山に彼を見舞に行きました。

彼はよく聞こえないように見うけられたのですが、私達は彼のために祈りました。そして彼は神様を全く信じています。

クリスチャンである可愛い奥様が、彼にとって大きな平安と慰めでありますように！

できるなら、神様が少しでも長く、彼を生かして下さいように！

私は、あなたの手紙に喜びを感じています。神様は、あなたを偉大な平信徒として下さるでしょうし、この日本でも、そのような実業家を必要としていますから。

神様と実業界のために忠実であって下さい！

何時の日か間もなく、この邪悪な世界に突然に、キリストはこの教会を召し出されるでしょう。

(再臨が真近に来るでしょう。)

何時も準備していきましょう！

神様の祝福の内に。

1940年6月22日

モーク先生へ

小西

この月の19日に行われた、故天野氏の記念会に出席できなかったことを残念に思っています。私はその時の様子を知りたいと思っています。どうぞ知らせて下さい。先生からその時の様子を聴きたいと願っています。

彼の死について、彼の父上からのお手紙により大きな感動を与えられました。

1940年6月24日 朝

ローラ・モーク

先週の金曜の夜、私達は、26名の兄弟たち、勿論、天野さんの父上や友達も、この恵みに満ちた記念会に出席されました。

天野氏(父上)は50円を教会に、50円を秀夫の思い出のためにと、月曜会に献金されました。

これは式次第です。

司会 藤田昌直牧師

讃美歌 563

聖書朗読 篠崎

祈祷 内田

独唱 (讃美歌492) 栗野

説教 広野牧師

追憶の証し L・モーク

” 長谷川進一

” 天野(父上)

祈り 数名の方々

讃美歌(英語)

思い出の話。お茶とお菓子。

長谷川進一氏は流れ落ちる涙で、話が途切れ途切れでした。すべての人々は、天野氏の栄光への死に感動させられました。私達の兄弟の一人は早く天に登って行きました。私達も、彼に従わなくてはなりません。私達は、天野氏の父上に救いの御手が差しのべられますように祈らなければなりません。死と破壊はこの世のもの。生命と勝利は、キリストとともにあります。キリストはその敵からキリストの子等を救うために、間もなく来られます。キリストご自身の尊き血により贖われた主の世界を私達に下さいます。祝福の内に。

1950年9月13日

ローラ・モーク

小西様

「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分を捧げるように努めはげみなさい」。(テモテ、2章15節)

この本の中には、生きるも、死ぬるも、永遠に至る道すがらの、すべての真理が含まれています。

神様の真理は、満ち足りています。しかし、真理を獲得するために学び、それを受け入れるように心を開き、そしてそれに従わなくてはなりません。

特に、伝道者にとって大切なのは「本の中の本」この本の学びです。

あなたは、聖書について書かれたどんな本より多く、聖書そのものを学ばねばなりません。

神様がまずあなたを教えるでしょう。

主はあなたの最良の師であります。

神の祝福の内に。

2 藤田昌直

藤田昌直牧師 略歴

- 1905年 東京に生まれる
- 1921年 モーク先生のバイブルクラスに出席
- 1922年 受洗
- 1923年 ソートン日本聖書義塾入学。
- 1928年 神戸中央神学校卒業。
大阪城北教会、本郷根津教会牧師を歴任。
- 1940年 小石川白山教会牧師に就任。
- 1982年 召天

オクラホマ州、ドーバー

1957年6月22日

親愛なる藤田様と教会の皆様

わたしの71回の誕生日のためにお送りくださった美しいお盆、有難うございました。それは可愛らしくて、わたしは大切にしています。なぜならそれが、わたしがたいへん長い間居住し働いて参りました小石川から送られてきたからです。

5月15日の洪水からずっと、ドーバーは水面下に没してしまいました。そして場所によっては未だに没しているところもあります。今は史上何れの時よりも、もっと雨が降っております。今なおほとんど毎日雨が降っています。だから人々は家を掃除することも乾燥させることもできません。

雨のためにわたしは日本のことを思います。そして雨のためにむしろいつもより涼しく感じます。わたしは小石川教会及び教会学校から手紙をいただいて嬉しく思います。わたしは皆さんには、皆さんの悩みも苦難もあるということを知っております。なぜならサタンが最も熱心に妨げようとするのは、霊的に働いている教会と教会

員だからです。

こちらでもわたしたちにはわたしたちの問題があります。人々が世界を改革しようとしているからです。キリストの教会は可能な限り、ますます妨げられつつあります。そして真のキリスト者は、いっそう迫害され、試練を受けつつあります。それも僅か短期間にすぎないのですから、わたしたちは、わたしたちの信仰をくじけさせるべきではなく、また弱くなってはなりません。むしろもっと強くなり、キリストとともにますますしっかりと歩くようになるべきです。キリストはいつもわたしたちのそばにいらっしゃって、進んでわたしたちを助けてくださいます。わたしは毎日祈り、わたしの力のすべてを日本とキリストのために使おうと努力しています。

わたしは 8 月にネイパビルでクレーマーさんとメイヤー御夫妻にお会いしようと思っています。わたしたちには共通の説教がたくさんあるでしょう。

神様が皆様を祝福してくださいますように。そしてわたしたちみんながキリストに服従して相会することができますように。

深い愛をこめて。

3 石館守三

石館守三博士 略歴

1901年 青森に生まれる。

1921年 東京大学薬学科入学。

モーク先生のバイブルクラスに出席。

1924年 受洗

1925年 東京大学卒業。

薬学博士。東京大学名誉教授。日本薬剤師会会長。

イリノイ州、シカゴ

11月27日

ローラ・モーク

親愛なる石館博士と令夫人様

わたしはわたしの姪及びその家族と感謝祭を過すために水曜日にシカゴへ来ました。先週わたしはマディソンにいました。そしてメッサ シュミット夫人とそのうるわしい家で一晩過ごしました。メッサ シュミット夫人は、石館さんがアメリカ経由で帰れば、彼女の家であなたをもてなすことができるだろうととても期待していました。

わたしは毎日旅行していました。そしてたくさんの州とカナダとを踏破しました。到るところで人々は日本及び教会にについて熱心に聞いたがっていました。

わたしはたくさんの昔なじみの友人や親戚に会いました。そして教会の人々の本当の誠実さと信仰とにたいへん鼓舞されています。しかし、教会がキリストに忠実であり、世の人々がますますキリストと正義とに反対しているということは、よその場所と同じように此処でも本当です。そしてそれはわたしたちが忠実で誠実でなければならぬということを意味します。

一つのことをわたしに深い感銘を与えます。そしてそれは高い生

活水準です。食物や衣服はたいへん豊富です。しかしそれは結局、人々の心と魂とを満足させは致しません。

わたしの心は依然として日本に在ります。そして将来もそうでしょう。私は普通は毎日2回、そして日曜日にはしばしば3回話をしています。礼拝毎に人々は日本のため、特に目白の神学校のために献金をしています。

石館さん、わたしはあなたのヨーロッパの経験を聞きたいと思います。勿論、あなたは旅行をたいへん楽しみ、また多く学んだことでありましょう。

旅行は当地では列車を使ってとても愉快です。しかしわたしはバスは好みません。普通は説教者が次の約束地まで車で送ってくれます。

フィラデルフィアでわたしはたくさんの親戚に会いました。そしてわたしの従兄の大きい教会で話をしました。こうした経験はすべて興味深いものがございました。

わたしは悌二さんが快方に向かっており、家族もみな元気だということをお大変嬉しく思います。

どうぞ、教会員の皆様にもよろしくお願い申し上げます。わたしはあなたに、祝福されたクリスマスを本当に望みます。そしてキリストの聖霊が、この騒然とした世の中に行きわたり、永遠に続く平和をもたらしますように。

神様があなた方を祝福して下さいますように。

オクラホマ州、ドーバー

1959年5月27日

ローラ・モーク

親愛なる石館夫人および皆様

結構なお手紙有難うございました。お手紙にはあなたのご家庭のこととわたしが聞いて嬉しいことがすっかり書いてありました。わたしが日本を去ってから、何もかもがどんなにか変わってしまったことでしょう。しかも日本の教会のすべての人の声と日本の教会の仕

事のすべてが以前とすっかり同じで、わたしにはなつかしく思われます。ご返事が大変遅れ、特にテープ録音のお礼が大変遅れたことを申し訳ないと思います。しかし当地の人たちが多くかかっている流感のビールスで、どんなにか病が重かったかをあなたにお話ししたら、あなたはわたしを許して下さいでしょう。流感は異常なほど悪性で、そのため死んだ人も多くあります。わたしは今なお医者にかかっている、未だ数週間何もしてはいけないことになっています。しかし気分がとてもいいので、手紙の返事を2,3通書きたいと思っています。そしてあなたへのご返事が第1です。

わたしがテープ録音で教会の礼拝を聞いたときに、教会の礼拝では皆さんがクリスマスの讃美歌を歌っておいりましたが、わたしは、どんなによく讃美歌を覚えていたか驚くほどでした。そして初めてテープをまわしたにもかかわらず、わたしもそれに加わって、皆さんと一緒に歌いました。わたしは、この秋再度日本を訪ねるような気持ちになればいいと思います。しかし当地アメリカでは事態は全然よくは思えません。そしてわたしの年齢では　わたしは先週で73歳になりました　わたしは誰にもわたしという重荷をかけたくありません。みなさんは日本でこれ以上ないというほど十分な重荷をかかえていらっしゃると思います。しかしわたしたちは間もなく相会し、みんなが現在の苦悩と難儀からのがれられるものと確信します。それ故、わたしは、ただわたしの愛する日本の全友人とわたし自身を神様に委ね、偉大なる再開を期待しています。

4 白山教会宛

愛する白山教会の皆様へ

ローラ・モーク

最近いただいた、みなさまからのいくつかのお手紙を深く感謝いたします。それによって、わたしの愛する小石川白山教会のこの頃の様子、よくわかりました。また台風にも拘らず、守られている建物のことについても、よくわかりました。その上会員及び教友のみなさまの信仰生活についても、よく知ることができました。

このごろのように、はげしい変化の時代には、また、世界中の国々と民族間に起るつねならざる進展の中にあっては、わたしたちが住んでいたところの人々、また、長く働いていたところの人々がどうなっていることだろうか、本当につねに心配になり、その消息を知りたいものだと、こころ熱するものがあります。したがって、自然に、わたしの最大なる興味と、願望はわたしがながく働いていた諸教会と、クリスチャンたちの上にあります。そして、すべての報告が、みなよいものであり、奨励的なものであることは、なんと嬉しいことでしょう。

わたしは、実に多くの忠実なそして献身的な、クリスチャンたちがあることを知っています。こういうクリスチャンたちは、神がよしと見給うことはなんでも、喜んでこれを背負う人々であります。

こういう方々は、多くの試練と艱難の中にも、忠実であり真実であって、かたく立って来た人々であります。

この人々の多くは、最初の回心の時以来、信仰のゆるぎがありません。神様は、この人々が負い得ないような重荷を、負わせなさらないと私どもは固く信じます。そしてその人々が、必要なすべての靈的力を、内にも外にもあたえて下さるとかたく信じます。

アメリカにおいても、あなたが経験するような同じ問題を多く持っております。しかし、ここでは、食物もありあまるほどであり、

金銭にもとんでいるので、その点はさいわいというより、むしろ不幸かも知れません。わたしたちはもっとなやむ必要があります。神様に対してうえかわく必要があります。そしてキリストにもっと近く生きる必要があります。そして更に、わたしたちの祈りや働きにおいて教会をまず第 1 に置くという精神が、再びさかんになることが必要であります。

わたしの毎日の祈りは、あなたがたすべてが、教会を通してのキリストの働きにおいて、あなたがたが捧げている御奉仕のために、地上にあってもまた天国にあっても、大いにむくられるようにとのことであります。わたしはキリストが再び来りたまう時に、わたしもまたあなた方と共に主にむくられることを待ち望んでおります。

モーク先生のお手紙を読んでいると、あたかも、使徒たちの手紙の一つを読んでいるような気がします。初代教会キリスト者たちも、パウロからの手紙をこんなふうにして、モーク先生の期待のように、わたしたちは最後の息を引きとるまで、主と教会をわたしたちの生涯において第 1 のものとして、これを愛し、これに仕えてゆこうではありませんか。(藤田昌直記)

(白山のおとづれ 第 8 号より転載 1958 年 11 月 19 日発行)